

2018年8月12日(日)朝10:10
8月第2公同主日礼拝式説教

主の聖靈降臨節第13 自由交歎会等
日本アライアンス庄原基督教會

説教題：新しいエルサレムの形成

聖書：ヨハネの黙示録 21章15～21節

＜口語訳＞

新約聖書408頁

ヨハネの黙示録 21章15～21節

＜新共同訳＞

新約聖書478～479頁

ヨハネの黙示録 21章15～21節

＜新改訳第3版＞

新約聖書501頁

ヨハネの黙示録21章15～21節

＜塚本訳＞

新約聖書822頁

主題：主イエス様から賜った聖靈の導き

によって主の弟子たちは、主の名による
神の罪からの救いを宣べ伝えたように、
私たちも、福音を伝えたい。

序論；

- ◇ヨハネの黙示録は、1章1節、「イエス・キリストの黙示」、神の御子イエス・キリスト様が、長老・使徒ヨハネに啓示の「神の国の奥義」、ローマ皇帝ドミティアヌス(81～96)時代の事。
- ◇ヨハネ黙示録1章は、御子の再臨信仰と愛、2章～3章は、7教会への手紙、4～5章は、羔羊礼拝、大讃美、6～13章は、聖徒、天使と龍、獸との戦い、14章は、小羊への大讃美、神無視の人々の裁きと信仰者への忍耐、15章は、金の怒りの鉢の神の裁き序曲、16章は、金の鉢の用意命令、獸の座の暗黒の裁き、ハルマゲドンでの龍と獸と主なる神との決戦、バビロン滅亡預言で、17章は、大淫婦と権力者の癒着、仔羊の勝利、18章は、バビロンの滅亡宣言と哀歌、19章は、大群衆讃美・長老らの礼拝、仔羊婚姻への花嫁の招き、神の大宴会、ハルマゲドンでの神の大勝利、20章は、サタンの千年間の幽閉、殉教者らの復活、千年間王座、サタンの滅亡、死と陰府の葬り、21章1～8節は、花嫁と3つの聲、9～14節、新婦・新しいエルサレムの啓示。

本論；

- ◆本日、ヨハネ黙示録第21章15～21節から
主の使信に思い・心をとめます。
 - ◆黙示録21章15～21節；ヨハネは、新婦を
新しいエルサレムの形成の啓示を見ました。
 - ◆21:9～27；塚本訳；新しきエルサレム
- 「15 私に語る者は都とその門と城壁とを測るために金の間棹の尺度を持っていた。
- 16 都は真四角で、その長さは幅と同じである。彼は間棹で都を一万二千町と測った。長さと幅と高さとは(皆)同じである。
- 17 またその城壁を人間の尺度、すなわち、(この)天使の尺度で百四十四キュビットと測った。
- 18 城壁の建築は碧玉、都は潔い玻璃に似た純金である。
- 19 都の城壁の土台石はあらゆる宝石で飾られている——第一の土台石は碧玉、第二は青玉、第三は玉髓、第四は緑玉、
- 20 第五は赤縞瑪瑙、第六は赤瑪瑙、第七は貴橄欖石、第八は緑柱石、第九は黄玉石、

第十は緑玉髓、第十一は風信子石、第十二は紫水晶。

21 また十二の門は十二の真珠で、門の一つ一つはそれぞれ一つの真珠であった。また都の大通りは透き徹る玻璃のような純金であった。

◇15～16節;「新しきエルサレムの都」が、「門と城壁」によって、「形成」された、「構造」であることを、「神」は、ヨハネに示されました。

⇒「門」は、主イエス様が、羊の門のように「門」をご自身に当て嵌めて語られることが屡々ありました。

⇒「城壁」は、ヨシニア記のエリコの城壁崩し等に見られますように、市民世活を守る「城壁」の役割が考えられることです。

⇒「新しきエルサレム都の門と城壁」も、ヨハネの幻の中で示されたのも、「神の守り」の生活が確保されているということでしょう。敵からの守りが必要だった罪汚れに満ちた世とは違い、平和そのものの満ちている「神の都」の「門と城壁」です。

⇒平和の象徴であるソロモンの「都」を連想。

◇17～20節;「**城壁**」が測られます。

⇒「**城壁**」(文語訳;石垣)が、測られますが、「**人の度・尺度**」すなわち「**御使の度・尺度**」に結び付けての説明があります。

⇒「**城壁**」はまた、碧玉で飾られ、都全体は瑠璃のような純金にて造られ、「**城壁**」の土台石(文語訳;礎)は12種類の宝石で造られています。まことに豪華で、「**神の栄光**」を現わすのに相応しいものとなっています。

⇒すべての宝石の石に意味を持たせることは困難ですし、あまり重要なことではないと思われますが、「**神の守り**」の象徴である「**城壁**」の華美な姿は、**神の栄光中心の都**であることを表現していることは間違いないありません。

⇒地上の教会も、「**新しきエルサレム**」=教会の姿で描かれる要素をすでに与えられていることを喜び、ますます「**神の栄光**」を讃美する礼拝を大事にしたいと願います。

⇒「**経済的豊かさ**」を「**城壁**」とする利益中心の生活は、弱肉強食社会で、「**神の平和**」を考える余地がありません。

◇21節;「門」12、1つの真珠で飾られています。

⇒「門」は、守りの象徴であると同時に、主ご自身を表現するため、主ご自身も用いられたので、この栄光に満ちた「**新しきエルサレムの都**」に入るには、「**羔羊なる主の門**」を通してという思いも込められているでしょう。

⇒「**狭い門**」という主イエス様のメッセージも聞こえています。「**神信仰**」に徹した生活は、この世では、変人扱いでしたが、「**神の都**」では、「**真珠で飾れた門**」は、十字架の主の姿から復活の栄光の主に歓迎されることを思わされます。

⇒OS師によると、「**真珠**」は、アコヤ貝から採取されるので、「門」にする大きさのものは、地上の現物では、存在しないので、**神**が用意して下さるものでしょうと、語っている。

⇒OS師は、**都**は正方形で、東西南北に3つずつあり(黙示録21:13)、どの方面からでも入ることができ、異なった民族、異なった教派教会も、主義主張を堅持しつつ入るが、「門」の内では、**主なる神**が一致させて下さると、語っていて下さいます。

結論；

- ◇ヨハネの黙示録は、1章1節、「イエス・キリストの黙示」、神の御子イエス・キリスト様が、長老・使徒ヨハネに啓示の「神の国の奥義」、ローマ皇帝ドミティアヌス(81～96)時代の事。
- ◇ヨハネ黙示録1章は、御子の再臨信仰と愛、2章～3章は、7教会への手紙、4～5章は、羔羊礼拝、大讃美、6～13章は、聖徒、天使と龍、獸との戦い、14章は、小羊への大讃美、神無視の人々の裁きと信仰者への忍耐、15章は、金の怒りの鉢の神の裁き序曲、16章は、金の鉢の用意命令、獸の座の暗黒の裁き、ハルマゲドンでの龍と獸と主なる神との決戦、バビロン滅亡預言で、17章は、大淫婦と権力者の癒着、仔羊の勝利、18章は、バビロンの滅亡宣言と哀歌、19章は、大群衆讃美・長老らの礼拝、仔羊婚姻への花嫁の招き、神の大宴会、ハルマゲドンでの神の大勝利、20章は、サタンの千年間の幽閉、殉教者らの復活、千年間王座、サタンの滅亡、死と陰府の葬り、21章1～8節は、花嫁と3つの聲、9～14節、新婦・新しいエルサレムの啓示。

◇神は、変わらない愛と思いやりの神です。

◇ヨハネ黙示録21章15～21節は、「新しいエルサレム」の形成は、「羔羊の新婦」と共に「門と城壁」によって華やかに飾られ、正四角形の「都・新しきエルサレム」は、「城壁」は神の栄光を表現し、「門」は、各方面3つで、どちらからでもでも入ることを許されています。「最後の七つの災厄が盛られた七つの鉢を持つ七人の怒りの天使」が、今は、「平和と祝福」のため、先導して見せてくれる神の愛のご配慮の中で、素晴らしい都をヨハネは、堪能にしたことでしょう。私たちも、自由の御靈に導かれて、「門と城壁」に囲まれた神の都に入る希望を与えられたいと願います。

⇒イザヤ書60章の「新しきエルサレム」を見たいと思います。「あなたの門はいつも開かれ、昼も夜も閉じられない。国々の財宝があなたところに運ばれて来る。その王たちが導かれて来るためである。」(60:11)

⇒異なる民族、異なるキリスト教徒の教派が、教義・主張の壁を乗り越え、「神の栄光の城壁」と「真珠の門」を通って一致の入城を。